

区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和4年3月
会議 区政会議（3月グループ別）

番号	委員の意見	区長が講じた措置
1	【会議の進め方について】 区政会議には公募で集まった委員も多く、何か言いたいと思ってきている人が多いと思う。区から提案された答えに対して意見をいうことも必要だとは思いますが、活発になんでもいいので言ってくださいといった進め方のほうが、様々な話が出てより多くの意見がでるのではないかなと思う。	区政会議は、区政会議の運営の基本となる事項に関する条例（以下「条例」）及び区政会議の委員の定数の基準及び会議録等の公表等に関する規則（以下「規則」）に基づき、運営に必要な事項は平野区区政会議運営要綱（以下「要綱」）に定め、条例や規則、要綱に基づいた運営を行っております。 運営方針や将来ビジョンに関する意見をいただくことも必要ですが、それらは区役所が行っている様々な業務の一部ですので、各グループ（分野）などに関することについても広くご意見をいただきたいと考えております。
2	【区政会議での意見について】 区政会議の場では、区の運営方針などに対する意見を求めているのか。それとも防災などグループに関する一般的な意見を求めているのか。	また、平野区区政会議の委員については、規則で定める10人以上50人以下の範囲内で、要綱で定める①地域団体より推薦された委員、②公募により選定する委員、③学識を有する委員・その他区長が適当と認める委員を選定しています。大阪市では市政改革の一環として「地域社会における住民自治の拡充」に向け、地域の総意形成の役割を担う地域活動協議会と区民が区政運営に参加・参画する仕組みの一つである区政会議との連携を推進しているところ です。そのため平野区においては区内すべての地域活動協議会（22地域）に区政会議への参画を依頼し、現在18地域活動協議会から参画いただいております。
3	【委員構成について】 委員構成について、地活協の所属委員が多いのはなぜか、説明してほしい。	
4	【事業の優先順位について】 たくさんの事業がある中では、全てを同時進行ではできないと思うので、区役所として順位付けして、1つずつクリアしていく方がいいのではないかなと思う。	事業に対する資源の配分につきまして、貴重なご意見をいただきありがとうございます。特に、コロナ禍での対応など、長期間にわたり対応が必要な事案もあることなどから、すべてを同時進行することが困難な状況もあり、運営方針の取組を振り返る際にも、進捗が芳しくない事案も想定されるところです。
5	【区役所から地域への情報発信について】 区役所が今年度何に力を入れるのがわかりにくい。もっと地域と一体となって、区役所から協力してほしいことなどもハッキリと伝わるようにしてほしい。	一方で、現状といたしまして、どの事業も区としては必要不可欠なものとして認識しており、年度ごとに、特に重点的に取り組む分野として、運営方針を示しております。令和4年度運営方針では、「安全・安心のまちづくり」「みんなで支えあう福祉のまちづくり」「こどもが元気で育つまちづくり」として、3つの柱と定め、具体的な事業を取りまとめています。 現時点では、各事業への順位付けまでにはいたっておりませんが、予算など厳しい状況も続いておりますので、いただいたご意見も十分ふまえながら、事業の実施段階のみならず、計画段階においても、検討してまいりたいと考えております。 また、区民の皆様が少しでも生活しやすくなるためには、日常的な取組の継続が重要であり、現在、各地域において、防災訓練や防犯パトロール、要援護者名簿を使った見守り活動、簡単なサポートをする有償ボランティアの取組などを行っていただいております。地域にお住まいの皆様は力は欠かせないと認識しております。 なお、担当によっては、来庁される方の対応などもあり、職員が各地域の現場へ頻繁に出向くことは困難な場合もありますが、地域の状況の把握にも努め、必要な支援を行ってまいりたいと考えております。 また、今後、法律が改正されるなど、新たな取組をお願いすることもあるかと思いますが、行政側が示す内容が、地域にとって良いことかどうかなど、十分に検討しながら、より生活しやすい地域づくりをめざしてまいりたいと考えております。
6	【将来ビジョンにおけるパブリック・コメントについて】 ・表紙や課題のページにおけるイラスト等を変更し、全体的も大分まとまってきているように思う。 ・パブリック・コメントの意見を取り入れてうまくまとめられているように思う。平野区はとても歴史があり、歴史博物館で喜連村の歴史展示をしていることなども皆さんに知っていただいて、平野区のいいところをもっとPRしていけたらと思う。 ・巻末データの一部（高齢者虐待・障がい者手帳所持数）について、平成30年のデータが使われている。新しい数値を出してほしい。	将来ビジョンの改定にあたり、様々なご意見をいただきありがとうございました。将来ビジョンの改定について、建設的なご意見もいただきましたので、より良いものとなるよう、必要箇所を再度修正・確認してまいりました。区政会議時点では、資料作成当時のデータを掲載しておりましたが、可能な限り最新のデータに更新しましたので、将来ビジョンについては、下記ホームページ等をご確認ください。 また、平野区には多くの歴史的資源もありますので、区の魅力を発信するという点からも、多くの方に平野区の魅力を知ってもらえるよう広報に努めてまいります。
7	【予算について】 ・どのように金額を振り分けていて、24区の中では、どれくらいの規模なのか。 ・最近は母子心中なども聞くんが、区の予算で母子手当（児童扶養手当）を上乗せできないのか。	予算については、基本的に24区の人口に応じた形で予算配分されておりますので、平野区の予算としては24区中で1位となっております。 平野区の予算については、「区長自由経費」「区CM（シティ・マネージャー）自由経費」「校長経営戦略支援予算（区担当教育次長執行枠）」の3種類があります。「区長自由経費」については、区役所が執行する独自の予算として、将来ビジョンや運営方針に掲げる福祉や子育て、防災・防犯といった取組の推進に必要な事業を実施する予算となっています。「区CM自由経費」については、各区の特性等に応じて区長が区シティ・マネージャーとして大阪市の各局室に対して指示や調整を行い、それをもとに各局室で編成した予算であり、区役所が直接独自に使う予算ではなく、道路・公園やスポーツ施設などの経費として、局室が区のために使用するという予算になっています。また、「校長経営戦略支援予算」については、各学校のニーズ、教育会議等でのご意見を踏まえまして、区内の小中学校を対象とした事業を企画し、各学校の目標達成を支援するために直接執行する経費になります。 児童扶養手当等については、大阪市全体の予算で執行するものであるため、区独自の予算で上乗せすることはできませんが、生活が困窮されている方についての支援もありますので、適切に利用できるよう周知に努めてまいります。

【安全安心まちづくり】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和 4 年 3 月
分野 安全安心まちづくり

番号	委員の意見	区長が講じた措置
8	【防災無線について】 ・令和 4 年 2 月16日に防災無線が流れると聞いていたが、聞こえなかった。防災のお知らせを携帯に登録しているので、お知らせメールが届いたが、一番必要とする高齢者には、やはり防災無線が必要と思うがなぜ流れなかったのか。 ・防災無線は、耳が聞こえにくい高齢者なども多いので、どちらかという、自助より共助の面でも広げていくべきものだと思う。	防災無線については、学校等の屋上に設置している同報系防災行政無線（防災スピーカー）やMCA無線（トランシーバー型）などがあり、令和 4 年 2 月16日には、同報系防災行政無線を使用した防災訓練を実施しました。 放送設備の設置場所について、以前は平屋だったところが高層の建物に囲まれるようになったなどの理由で、聞こえづらくなったと地域から聞いております。 また、防災スピーカーからの音声が届き取れなかった場合には、通話料はかかりますが、防災行政無線テレホンサービス(06-6210-3899) で放送した音声を聞くことができるようにしております。 一方で、同報系防災行政無線については、すべての方に音声を届ける必要もあることから、高性能アンプや高性能スピーカーにバージョンアップを行っておりますが、都市部を取り巻く環境によって、音声が届わりにくい状況となっておりますので、改めて関係機関にも情報提供を行い、改善に努めてまいります。
9	【防災訓練の実施実績について】 運営方針の中で、「小中学校で実施する防災の取組」の実績について、昨年度は 8 回、今年度も 9 回となっているが、近所の小中学校ではコロナ禍で実施できていないが、実際に行えたのか。	令和元年度（コロナ禍前）までの実施数と比較すると、大幅に減少している状況ですが、感染拡大状況を検討しながら、可能な限り取組を行っており、今年度の小中学校での防災訓練については、学校の土曜授業の中で開催しております。 一方で、小中学校によっては、訓練を実施できていないところも多数ありますので、コロナ禍の状況でも工夫した訓練ができるよう、今後の取組を検討してまいります。
10	【各地域の防災訓練など情報発信・共有について】 ・各地域で行う防災訓練などの情報は、あらかじめ区役所が把握していると思うので、その情報を発信すると共に、他の地域から見学に行く機会をコーディネートするなどしてほしい。 ・地域の防災訓練の際に、合同で区役所も参加していただければ、地域の現状把握にも繋がると思う。また、各地域での防災訓練の状況を区役所を通して他地域にもつなげてほしい。 ・体調が悪い方などを介助するにも日頃の訓練が大事だと思う。やはり区役所主導で各地域の訓練実施情報を発信してほしい。また、高齢者になるとホームページまで見ない方が多いので、その辺も考慮してほしい。 ・防災訓練をどこで、どのようなことをやっているとか、防災リーダーのこととか、周知されていないこともあり、ほとんどの人が知らないと思う。 ・防災リーダーがどこにいて、誰なのか一般の人は誰もわからないと思う。ネットで検索しても古い情報しか出てこない。その辺りを変えていかないと一般の人には全然伝わってこない。 ・例えば、区役所 1 階の住民票の発行を待つスペースなどに防災訓練の情報やAEDの設置場所などの情報を簡単な冊子にして閲覧してもらえるようにするのはどうか。	地域で主体的に防災活動に取り組んでいただきありがとうございます。普段からの防災訓練の積み重ねは、防災技術や防災知識の習得につながるため、今後も継続して防災活動に取り組む、災害に備えていただければ幸いです。 また、防災リーダーは、各地域の連合町会長等からご推薦をいただき、防災訓練等の地域防災活動を中心となって実施していただいております。実際に20万人の住民が被災した場合、区役所が主体となって対応することは困難であるため、日頃から地域が主体となり、自助・共助により災害を乗り切れるように、区役所が支援できればと考えております。そのため、防災リーダーには、大規模災害時に地域住民の先頭に立って初期消火救出救護活動や避難所開設等を行い、平常時には地域住民に防災啓発や防災点検を行うとともに、いつ災害が発生しても対応できるように防災訓練を通じて必要な知識や技術の習得に取り組んでいただいております。 各地域の防災訓練等の取組については、広く周知できておりませんので、令和 4 年 4 月以降にはなりますが、各地域における防災活動の情報発信に努めてまいります。 また、情報発信につきましては、区役所としても大きな課題であると認識しております。現在の広報としては、広報紙やホームページを活用したものが主となっておりますが、緊急時等、リアルタイムの情報をどう発信していくかが課題でもありますので、皆様のお知恵もいただきながら検討してまいりたいと考えております。
11	【防災意識の啓発について】 ・防災意識を高める目的で、防災のメッセージを書いた防災タオルを区役所として配布してはどうか。 ・自身の地域では、町会役員さんが被害状況を確認するために、防災タオルをかけるというような取組を行っている。平野区全体でもぜひ取り組んでみてほしい。	地域で主体的に防災活動に取り組んでいただきありがとうございます。普段からの防災訓練の積み重ねは、防災技術や防災知識の習得につながるため、今後も継続して防災活動に取り組む、災害に備えていただければ幸いです。 防災タオルについては、良い取組であるとは思いますが、予算的にも区役所主体で実施することは困難であるため、各地域活動協議会に交付している補助金等を活用し、各地域で取り組んでいただければ幸いです。 また、各地域の先進的な取組事例を区ホームページ や広報紙等で情報発信してまいりますので、地域防災活動の参考としていただければ幸いです。
12	【こどもの防災教育について】 ・日中は大人が仕事でいないことも多く、小中学生等、こどもたちがもっと防災に関わっていけるような取組を考えてほしい。 ・若い人は仕事などがあり防災訓練へ参加が難しいと思うので、小中学生を対象に行い、そこでの話を親などに話して広げていくのが効果的ではないかと思う。	コロナ禍で、これまで地域と学校で一緒に行ってきた防災訓練等が、なかなか実施できていない状況ではありますが、こどもたちが家庭内で話をすることで、保護者にも情報が伝わるということも情報発信の 1 つの方法であると考えておりますので、小中学校の授業としての防災訓練の際には、こどもたちに「家に持ち帰って話をしてほしい」と声掛けを行っております。 こどもの頃からの防災教育をすることで、大人になった際にも防災意識を持続けるきっかけにもなると考えておりますので、今後も小中学校を巻き込んで、地域と一緒に広げてまいりたいと考えております。

【安全安心まちづくり】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和 4 年 3 月
分野 安全安心まちづくり

番号	委員の意見	区長が講じた措置
13	【AEDの設置場所について】 ・深夜にAEDが必要になった場合、設置している学校や区役所などは閉まっており使えない。何とかならないか。 ・一部の地域では、AEDの設置について区役所がコンビニと協定を結んでいると聞いているがどうなのか。	一部地域のコンビニにおいて、地域との話し合いの中で使えるようにしているところもあると聞いておりますが、他の地域での状況は区役所として把握できていない状況です。 現状では緊急時には、救急車を呼ぶしかない状況ではありますが、ご意見にもあるように、緊急時にはすぐにAEDを活用できるようにする必要があると考えておりますので、各地域の皆様とも話し合い、検討してまいります。
14	【防災リーダーや青バトの担い手について】 ・防災リーダーは、いざという時のために煙体験とか、搬送の仕方とか、消火器の使い方などの訓練をしているので、なるべく地域の中からも、たくさんの人が訓練に参加できるようにしたいと思う。 ・年配の方が防災リーダーの場合、助けに行った際に自身が腰を痛めるなどの可能性もあるので、できるだけ若い人を入れていただいた方がいいと思う。 ・青バトの担い手も高齢化が進んでおり、2人一組だが70歳を超えると特に夜は運転しないように言われている。運行予定を組むのも年齢制限があるので難しい。	現在、防災リーダーや青バトに携わっていただく方々の高齢化が進んでいる現状です。 区役所としても毎年防災リーダーの募集を行っておりますが、各地域においても若い方を紹介していただければ幸いです。 また、青バトについても、高齢化で運転する人が不足しているなど、各地域から様々な意見を聞いております。 今後も地域の中でコミュニケーションをとりながら、協力していただける方を見つけていただければ幸いです。
15	【防犯パトロールで流す音声について】 防犯の安全パトロールで流す音声について、月ごとに内容を変えてはどうか。特にコロナ禍であることをもっと重点的に意識した内容にしてもいいのではないか。	現在の防犯パトロール音声については、コロナ禍でもあるため、緊急事態宣言期間・まん延防止期間・歳末警戒時に合わせた音声を放送している状況です。 月ごとに音声を切り替えるということは、さらなる防犯啓発につながると考えております。一方で、現在、音声の切り替えを区役所CAT隊が行っておりますが、月ごとに音声を切り替えるとなると地域の皆様にもご協力いただかないといけない状況にもなりますので、地域の皆様とも話し合いを行い、今後検討してまいります。
16	【区役所から地域への情報発信について】 ・地域からも区役所に対して、具体的に取り組んでいる問題などを申し出していかないと、区役所の人員にも限りがあるので、変えていけないと思う。 ・地域の役員会などに、もっと定期的にまちづくり担当の職員が出てほしい。	地域の行事や会議につきましては、地域からのお声がけに合わせ、基本的に参加させていただいておりますが、この間のコロナ禍においては、感染拡大防止の観点から、感染リスクを慎重に検討し、対応させていただいております。 また、区役所の限られた人員での地域活動支援が難しい中、地域(地域活動協議会)の活動・運営の支援を行うために、平野区まちづくりセンターを設置し、地域活動支援業務を委託しております。 今後も、平野区まちづくりセンターと連携を密にし情報共有を行いつつ、区役所として行うべき支援を実施してまいります。

【地域福祉】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和4年3月
分野 地域福祉

番号	委員の意見	区長が講じた措置
17	【障がい者への支援について】 事業の優先順位をつけられたら、障がいのある人のことが後回しにならないか心配になる。	年度ごとに、特に重点的に取り組む分野については、運営方針に取りまとめており、地域福祉分野では「みんなで支えあう福祉のまちづくり」として「各地域の特性に応じた地域福祉支援体制の充実」「地域における支えあい活動への支援」を具体的取組として記載しています。 地域福祉を進めるにあたり、平野区地域福祉計画を策定しており、この計画の重要な柱のひとつに、「障がいのある人もない人も支えあえる平野区をめざして」と定めております。 また、区役所職員としても、ご意見のような考えはありませんし、区政会議委員の皆様も同様のお考えであると思います。 引き続き、取組を進めてまいりたいと考えておりますので、ご理解・ご協力のほどよろしくお願いいたします。
18	【福祉（見守り）に重点を置いた防災訓練について】 瓜破東地域では、消防署や区役所にも参加してもらい、消火訓練・AEDや心臓マッサージの方法等を教えてもらうような訓練を行い、コロナ禍で訪問もあまりできていない状況でもあるので、令和4年度は要援護者名簿に記載のある方や独居者の方を見守るという観点から、福祉に重点を置いた見守りとして防災訓練を予定している。	高齢者や要援護者の見守りは大切なものであり、地域の皆様のご協力も不可欠な状況です。 実施してみてわかる問題や、方法論、引き続き検討していく必要のある問題について、区役所も一緒に考えていければと思いますので、コロナ禍において、制約はありますが、今後も継続していただければ幸いです。
19	【高齢者・要援護者の見守りについて】 ・新たな見守り活動として、宅配業者による見守り・配食・会食といった方法を用いてのランチミーティングという高齢者の見守りを検討している。 ・瓜破西地域では、10月～3月の期間で8回の見守り活動を行った。どのような方法で見守り活動を行えばよいかといった意見交換を民生委員とも行っているが、高齢者の意見をどこまで聞くのか、どのように答えるのかといったことを町会ごとに意見収集を行い、よい方向性を見つけれればと思っている。また、要援護者名簿についても、現時点の実数値と異なる部分もあるので、どのようにすればよいかも考えていかないとけないと思っている。	要援護者名簿の更新については、件数も多く時間がかかっており、地域の方にご迷惑をおかけしている部分もあると思いますが、更新を行い可能な限り新しい情報を適宜共有できるよう努めてまいります。 また、将来ビジョンにも記載があるよう、さまざまな「つながり」は大切であると考えております。災害時に、高齢者や要支援者が取り残されることがないよう、地域が主体となった防災訓練を実施していただけることは、大変ありがたいことですので、各地域にもつながられるよう、連携に努めてまいります。
20	【有償ボランティアについて】 ・自身の地区では、独居の高齢者などを対象に、電球交換などちょっと自分では危ないことなどをサポートする有償ボランティアの取組を行っている。立ち上げには苦労もあったが、相談していただければ経験談をお話できると思う。 ・地域の有償ボランティアチームを作ろうと思っている。 【ボランティア活動について】 ・平野区でもっとボランティア活動を盛り上げるために、法人を設立したり、何か講座を開催してほしい。	平野区地域福祉計画でもお互いの支えあいが、大きなテーマの1つです。町会への加入世帯の減少や高齢化の進展、役員にかかる負担感などからの担い手不足などの状況をふまえ、さまざまな意見を出し合い、検討会議を立ち上げ、意見交換を行い、地域内の問題解決を行っておられる地域もあります。 有償ボランティア制度もそのような先駆的な取組の1つであり、困っている方を気軽に支援できる仕組みとして、非常に効果がある活動と認識しております。 また、ボランティア活動につきましては、現在、平野区社会福祉協議会にボランティア・市民活動センターが設置されており、ボランティアの登録や相談、交流会などが行われておりますので、社会福祉協議会をご案内しております。 瓜破北地域や瓜破東地域の取組は、他の地域にもつなげていきたい先駆的な取組であると考えております。今後、取り組んでいただける地域が増えるよう、また、すでに取り組んでおられる地域でも、より円滑に進められるよう平野区社会福祉協議会や地域包括支援センターなど、関係機関とも連携してまいりたいと考えております。
21	【こどもの居場所づくりの支援について】 ・平野区内にも、こども食堂はやっているのか。あるのであれば、運営に困っているようなので、区として支援できないのか。 ・保存期限が過ぎた災害用備蓄飲料や食料を、こども食堂に提供するなどしてもいいのではないか。	平野区内のこども食堂については、学校や家とは違った、第3の居場所として提供されており、食事の提供だけでなく、こどもたちへの学習支援を行っております。 区としては、こども食堂を運営している方々をつなげることで、提供のあった食料を分けることができるなど、効率的な運営ができると考え、運営している方々のネットワークづくりを支援しております。 こども食堂の運営については、それぞれが助成金等を獲得して運営していただいておりますので、区として、直接補助金を交付しているわけではありませんが、不登校児童の居場所づくりと学習支援として、区長自由経費予算を活用し取組を進めております。 また、災害用備蓄物資については、更新の際に、破棄するのではなく、各地域やイベント・各種会議などで、有効活用を行っております。

【こども教育】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和4年3月
分野 こども教育

番号	委員の意見	区長が講じた措置
22	【コロナ禍でのこどもたちの学校生活について】 ・コロナ禍で学校が休校になる等、こどもたちのモチベーションが下がり、学校に行きたくないという声も聞くが、区としてどのような対応をするのかという疑問がある。 ・家では普通だが、学校に行きにくいという声を多々聞くため、コロナ禍の対応というのを今後していかなければならないのかなと思う。	現在不登校が増えており、生活習慣の変化やコロナが怖いという不安、また家族の方に特定疾患等や基礎疾患があるために、家族からも行くのを止められるなど、いろいろなパターンがあります。 コロナ不安が原因の不登校の場合は、欠席扱いにならず出席停止としてカウントするような仕組みにもなっておりますので、なかなか実態が把握できないというのも、危惧しておりますが、全国的な課題となっておりますので、全市の対応も参考としながら実態把握について検討してまいります。 不登校のこどもたちへの支援については、関係機関と連携をとりながら、平野区で実施している生きる力育成支援事業の活用も図ってまいります。
23	【オンライン授業について】 ・リモート授業について、一方的に聞いているだけのように感じる。プライバシーの問題でカメラをオフにしているのかはわからないが、顔を映す方がしっかり着替えをするなど、良いこともあると思う。勉強もちゃんとできているのか不安もある。 ・家の事情によってオンラインができないという現状もあり、そういうのを考えて、個別の教室などを作るのも良いかなと思う。 ・結構大きい声で怒るなど、先生のこどもに対する接し方は昔と何も変わっていないように感じており、こどもの声をもうちょっと先生がきいて、学校で、もうちょっと楽しく学校生活を送れるような、こどもがもうちょっと尊重されるような教育を受けれたらいいなと思う。	オンライン授業については、時間のない中での導入であったこともあり、学校によつての取り組み方の差や、先生によつても差が出ている状況が調査で明らかになってきております。次年度には、ICTのサポーターを教育委員会で採用し、各学校に定期的に巡回して支援していく取組も始まることになっています。 また、各学校全児童生徒に1人1台タブレットを配っていますが、実際には活用できていないという課題は、教育委員会の方も認識しており、ハード面やソフト面でも改善するようにすすめています。授業双方向については、通信環境の改善も含めて取り組んでいます。学校へのサポートとして、機器の操作や授業改善を助言する支援員を派遣したり、コールセンターを設置するなど、改善に向けて取り組んでいるところです。 教員のこどもに対する接し方については、これまでもいくつかの事案が報告されていますが、校長との意見交換ができる教育行政連絡会などでも話し合ってもらいたいと考えております。
24	【いじめについて】 いじめに関しても、地域のいろんな現状や、そういったものがどれだけあるのかというのが、気になっている。	学校では新型コロナ対策もふまえ学校教育のICT化の取組の中で、1人1台タブレットを配布しており、「こころの天気予報」という機能を導入しています。自分の今日の気持ちを雨・曇り・晴れという天気で表示するシステムが入っており、それを先生が確認し、例えば雨であれば、家のことを聞くなどして、こどもの状態を確認しています。蓄積することができ、ほかの担任の方々も見るできるので、以前担任していたこどもの様子も確認できるようなシステムとなっています。このような新しいツールも活用しながら教育活動を行うように進めていくよう努めてまいります。
25	【登下校時の見守り活動について】 ・地域で見守り活動をしているが、こどもの保護者から感謝の気持ちが感じられない。地域の方には非常に感謝しているが、保護者の方の中には立ちたいから、立ってるんやろという方がおられる。先日の不審者が出たというメールがあり、見守りは非常に感謝すべきことかなと思うが、その感謝が保護者に伝わっていない。保護者に周知徹底するツールを作ってほしい。 ・一般の人の方には声をかけてもらうこともあるが、保護者はあまりない。非常に危険な場所もあるが、こどもが通学路を通らないことも多い。また、見守りに立っている人が減ってきている。 ・マスクするようになってから、特に表情が見えないので会釈をしても、相手に伝わってないように思う。表情を見て話すことがこの2年ほどこどもも大人もできてないところが心配なので、サポート体制のところで、入れてもらえたらいいなと思う。 ・自身の地域では、見守り隊の人も多く、保護者も仲のいい人には挨拶をしたり、感謝をしているように見えるが、うまくお互い伝えられてない、そういう機会がないように思う。今はどうしても仕事で時間の都合のつけられない方々も多いと思うが、時間の都合さえつけば、やりたいと思っている保護者もいっぱいいると思うので、今の子育て世帯の家の事情、母親も働き出るとか、そういうところもお互いを知っていく機会があればなと思う。 ・見守りの方法として、下校時間の買い物や自転車やお店にこども110番を表示するなどもある。	見守り隊の方が高齢化していることが一番の理由でもありますが、生活スタイルが変わり、朝の時間がとれないために、見守りを地域の方にお任せしている実態も見受けられると思います。また、マスクをしているために、先生がこどもの顔を認識できないこともあり、コロナ禍の1つの大きな課題であると思っております。 地域によっては、見守り隊の方を1年に1・2回、学校にお呼びし、感謝の気持ちをこどもたちが伝えるというイベントがあったり、区長が見守り隊の方を表彰する等、できる限り見守り隊の方々の取組も、地域やこどもたちに向けて改めて紹介した上で、その感謝を労うという取組も行っております。 各地域で好事例については、他地域にもつなげられるよう、広報に努めてまいりたいと考えています。
26	【こども・高齢者のつながりについて】 ・こどもたちと高齢者が何かつながっていけるような仕組みがあれば、保護者ともつながりができると思う。 ・見守りをされている方とこどもたちのつながりがないと思う。学校現場は、結構大変なので区役所からサポートして、地域の方と一緒にこどもたちの活動する場所を作ることなどでできれば広がりも出ると思う。 ・以前小学校で昔遊びとして、地域のお年寄りの方が、学校にいった紹介するといったことをしていた。	こどもと高齢者のつながる場については、本来であれば、敬老会や地域の行事等があげられますが、コロナ禍において取組ができていない現状です。 一方で、将来ビジョンにも記載しているよう、様々なつながりは重要であると考えておりますので、コロナ禍であっても、様々な世代の方が一緒に取り組むことができるような仕組みを検討してまいります。

【こども教育】区政会議におけるご意見への対応状況

年月 令和4年3月
分野 こども教育

番号	委員の意見	区長が講じた措置
27	【学校イベント（PTA活動）について】 コロナ禍でPTA活動もなくなり、保護者の横のつながりが無くなってきている。ママ友やその友達の範囲内以外の方と知り合うことが非常に減っているので情報交換ができていない。PTA活動自体が滞っていつている状況にあるが、いかに保護者間の連携を取れるか、またこどもたちに言うことができるのかということを考えながら活動を続けていきたい。	学校におけるPTA活動の果たされてきた役割を再認識し、区役所として支援できる部分については引き続き協力していきます。
28	【プラステンについて】 学校学習に関わった内容でたくさんあるが、具体的に1つ1つが、どういう形でこどもたちの身近なところで、つながっているかがわかりにくい。	+10（プラステン）が「平野区のこどもたちを元気にする宣言」の理念を具体的にした取組であることを、様々な方に知ってもらえるよう、可能な限り具体事例を紹介し、広報に努めてまいります。
29	【区内の貧困児童の実態について】 平野区内でも実際に貧困児童がいるのか。	国が公表している数字では、こどもの貧困率は16～17％（2019年値では13.5％）ほどと確認しております。平野区の数字までは公表しておりませんが、要保護児童対策地域協議会で対応している件数も、市内の他区と比較しても非常に多いことから、支援を要する状態にある児童が多いと考えられます。
30	【オレンジリボン運動について】 オレンジリボン運動について、大阪市と連携して行動したこともあるが、平野区としても共同でできれば、もっと幅広く色々とできるのではないか。	児童虐待に関係する「要保護児童対策地域協議会」において、平野区では毎月1回の会議に関係者として、オレンジリボン「児童虐待防止委員会」の方がスーパーバイザーとして参加していただいております。
31	【虐待通報について】 ・近所で虐待が疑われるようなことがあっても、中々口出しづらい雰囲気がある。警察に通報するのも不安がありしづらい。 ・虐待防止ダイヤル189の連絡先などをタイアップして周知していくことが効果的だと思う。	また、一般市民の方からの通報については、誰からの通報かはわからないようにしておりますが、警察への通報が困難である場合は、こども相談センターや24時間受付の虐待防止ダイヤル、主任児童委員や民生委員などでも結構ですので、ご連絡いただければ幸いです。 今後とも、児童虐待ゼロに向け、関係機関と連携し取組を進めてまいります。
32	【子育て支援に関わる人材の確保について】 問題のある親子さんと関わっている区役所の職員について、人事異動で定期的に変わるのはどうかと思う。対人間で関わって解決していくと思うので、定期異動を検討できないものかと思っている。	子育て支援に関わる区職員についても、教職員同様に定期異動があり、課題であると認識しております。そのため、子育て支援室や保健師など、問題のある家庭を支援する場合には、可能な限りチーム（複数人）で関わるように努めております。チームで関わることで、1人の職員が異動した場合でも引き続き対応ができ、チーム職員が一斉に異動するということがないように心がけているところです。 また、専門職スクールソーシャルワーカーなども、チームの一員に所属しておりますが、人材の確保が困難である現状でもありますので、難しい事例については管理職職員が関わることで対応できればと考えておりますので、ご理解いただければ幸いです。
33	【子育てサロンについて】 子育てサロンについて、PRができていないと思う。	令和4年3月時点で活動できている子育てサロンについては、平野連合のホットとさくらんぼ、瓜破西地域のワンダークラブ、加美東子育てサロンふたばの4か所にとどまっています。コロナ禍もあり、小さいこどもが外出することに不安との声もあり、利用者がほとんどいない状態です。 区で実施している様々なサービスについては、広報紙やLINE事業で紹介しておりますが、十分に周知できていないということも現状ですので、広く広報に努めてまいります。
34	【こどもの居場所について】 ある学校では、登校して教室に入るのが嫌で、校長室へ来るこどものために、学校菜園を協会に貸し出したと聞いた。貸し出すことで、こどもたちが菜園に興味をもち、協会のお年寄り（見守り活動をされている方など）に話に来ることがあり、こどもを誘導していくような試みが始まった。このようなことが、自然に広がれば、こどもも話しやすくなるのではと思う。	以前であれば管理作業員が花植えなどを行っていただいておりますが、現在は、コロナ禍でもあり、学校も忙しくなっていることから、なにも栽培されていない花壇も増えてきているような状況も聞いております。ご紹介いただいたご意見については、不登校のこどもたちが学校に行くモチベーションにもつながる良い取組の1つであると考えております。 また、瓜破西小学校の「ネイチャークラブ」など、生き物とのふれあいを通じ、こどもたちに貴重な体験と豊かな感性を育む取組は、学校を中心に地域住民とこどもたちや保護者とのつながる場づくりにも寄与すると考えられます。
35	【学校での取組について】 瓜破西小学校では、小学校内に西運動場、東運動場と運動場が豊かで、草刈りも大変なぐらい広く、ヤギを飼っている。こどもたちも世話をしており、生き物と接することがこどもたちにもいい影響を与えているのかなと思う。こどもの生き物に関しての心が非常によくなってきている。また、地域の方も参加してちょっとしたイベントも行っている。ただ他の学校に進められるものでもないと思うので、1つの取組として違う方向でもなにかできるのではないかなと思う。	各地域における良い取組であると思いますので、好事例として、他の地域にもつなげられるよう、区役所としても広く情報発信してまいります。